

JYONAN通信



株式会社 城南組 TEL:075-841-1403 FAX:075-812-0457



この『JYONAN通信』は皆さまと弊社とのご縁を大切にしていきたい

今後もなんらかお付合いが続けていただけたらと思い作らせていただきました

お時間があるときにでもお読みいただければ光栄です

かゆいところに手が届く建築屋でありたい…(株)城南組の代表取締役 寄本 猛です





ともともあるある~ 失

室内温度と光熱費は日射量がカギ



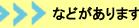
「エアコンを常に「強運転」にしていると不快で不健康で体によく

真夏の昼間、2階建て以上の住宅で、最上階に上がると嫌な空気の温度「もわっと」してますね。

どこの家でもそうだから仕方ないと、これが普通だと思って仕方なく暮らしておられる方が多いと思います。

その原因には・・・

- ①屋根・天井の断熱性が良くない場合
- ②日射遮蔽ができていない場合



これがしっかり解決できている住宅が、少ないと思われます。

昔の木造住宅は2階の天井には断熱材が入っていない家が多く、和室の天井板は木目調の薄いベニヤか 無垢の板でも数ミリの厚み。(隙間もあります)

真夏の太陽熱で屋根瓦も熱々、屋根裏換気もなければ**不快な暑さ**です。

では、冬の晴れた日が2階が暖かいか?そんなことありませんね。

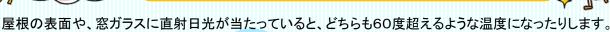
真冬の室外よりは、暖房していなくても室内の方がまだ、室温は少しはましくらいです。

室内の気温は室外に逃げていきますので、お天気が良くてもやはり寒いです。

これが「輻射熱」です。



温度差がある物体が2つあるとすれば、直接触れていなくても 高温の物体から低温の物体に向かって、勝手に熱が移動する現象です



そこから室内の人に向かって、強烈な「輻射熱」が襲ってくるわけです。

ただでさえ暑い夏なのに、電気ストーブが窓際についている状況です。

これを何とかしたい場合、電気ストーブならスイッチを切ればいいのですが、実際はせいぜいカーテンや ブラインドを閉めることぐらいですが・・・

それでも、熱の4割くらいしかカット出来ていないと言われています。

それで熱を下げるのに使われるのが、冷房(エアコン)ですね。

冷房で強制的に温度を下げることで体感温度を下げる。

窓際に座っていて輻射熱で背中が熱い、前からエアコンの冷風で暑さを下げようとするが、体には不快でしか ありません(冬はその逆ですね)

熱いと寒いを同時に受けることになり、自律神経はどっちの情報を信じればいいのだろうとなり

夏場、冷房の掛けすぎで体調を崩す人が多い原因の一つだと思います。

これを防ぐには、窓の「<mark>日射遮蔽</mark>」をちゃんとやっておけばいいのです。(ガラスをペアガラス、それも遮熱Low-E に 入れ替えたり、内窓をつけたり)また、窓の外で遮蔽する。

壁、屋根、天井の断熱もそうですが、窓ガラスが一番遮蔽しておきたいです。

窓の外でシェード、すだれ、よしずを立て掛けたり、(外か中かで全然違います。外からだと8割カットできると 言われています)

昔から、西の窓の外部によしずを立て掛けている家をよく見ました。 昔からある生活の知恵は、よく出来ていて今でも生きています。

何度もこのような家の断熱のことは書かせていただいていますが

コストの事もありますが「健康」というキーワードで家つくりを考えていただく事をお勧めいたし







昨年12月に義理の母(妻の母親)を亡くしました。

7年前に義父が癌で入院中の病院で亡くなり、義母は一人住まいとなり、数年前から週に3日ほどデイサービスに 通っていたのですが、日曜日の早朝、デイサービスのお迎えの方からの連絡で母が家から出て来られない 応答がないと!急いで鍵を預かっている妻と娘と駆けつけて見ると、浴槽の中で・・・

前日に妻は、電話でいつものように普通に話をして、いつもと変わらず元気だったようなのに。

119番で救急車がまず来てくれ、脈無しと確認されると、近くの警察が来られ(自宅で亡くなると殺人などの事件性が無いか 調べられる)その後、本署の刑事課の鑑識員が入り、家宅捜査のように取り調べ、私たちは質問を受け

母との関係、住所、名前、電話番号を聞かれ、財布、預金通帳、生命保険証などの存在、普段の生活ぶりなどを聞かれましたが 財布だけ確認できましたが、一緒に住んでいないので置き場所はわからない。

まさかの急な事で、妻も重要な物の置き場まで聞いていなかった。足(ヒザ)が悪いくらいで全然元気だったのに・・・ その後、鑑識員に「見ないで下さい」と言われたので、隣の部屋で待機。

遺体を部屋に移され、外傷などの有無などの確認だと思いますが、バスタオルを下さいと言われたので拭いていただいたのだろう。 遺体はいつの間にか車に積み込まれていて本署へ移動と、そこで医師の診断を受けますとの事。

誰もしくしく泣き悲しむ間もなく、葬儀場手配、お寺へ連絡しお通夜、葬儀の日時決め、母の実家に連絡すると、妻のいとこ夫婦が 来てくれ、葬儀屋さんと葬儀の内容決め(家族葬)葬儀に来てもらわなくても、誰まで連絡するか決めて連絡(町内も連絡しないといけ ない方へも)聞きつけてこられた町内の方への対応、あっという間に時間が過ぎていく。

鑑識員から連絡が来たのが、夜8時を廻る頃。本署へ行くと「<mark>心筋梗塞</mark>」との診断結果。

おそらく、葬儀屋さんの手配で来られた女性(二人)だと思いま<mark>すが、遺</mark>体をきれいにしていただき、白着も着せていただいた状態で やっとご対面。処置の説明やら警察(鑑識員)からの説明も受け、その後、葬儀場へ移動して葬儀場の安置所で再びご対面。

明日以降の手順を確認し合って、その日にすることが終了。

原因はやはりヒートショックですね。築約50年の木造住宅で、アルミサッシー枚ガラス窓。 当時のサッシは隙間もあり、この時期は寒い家です。

そんなこともあろうかと脱衣場には壁掛けの暖房機も付けられ

タイル張のお風呂からユニットバスに、数年前に入れ替えられてましたが 暖房機は運転していないし、この朝晩冷え込む時期に、脱衣場での脱衣で寒くて一気に 血圧上がり、 お風呂に入って急に体が温まり一気に血圧が下がったと思われます。 本人が一番まさか?と、いつものような流れで入ったお風呂だと思いますが

85才の体はこの時期、ある日突然耐えられなかった。

この通信でも、何度もヒートショック防止の為には家中温度差のない家づくり(高気密、高断熱、24時間換気など) 書かせていただいてきましたが、身内がこのようなことになると益々、私達建築屋が住まいづくりで優先すべき事や住まい方を お客様に伝えないと!!と節に思いました。

母は、うるさいぐらいおしゃべりで明るく、よく食べ、元気そのもので、デイサービスへ行くのも「楽しい、楽しい」と日頃から 聞いていました。

施設の所長さんと介護士の若い方達もお通夜に来てくれ、介護士さん達がすすり泣く声が後ろの席から聞こえていました。 通夜の儀が終わり、施設の所長さんとお話をさせていただくと「信じられません」と。

母はいつも皆の話の輪の中心になって周りをいつも明るくし、所長さんの相談相手でもあったようです。

これからのディーサービスの在り方で、模範となっていただいていた人と言っていただきました。 施設に通われている皆さんには、母が亡くなったことは言えません。

「急な家庭の事情で引っ越しされたことにしています」との事。

私の妻は、この1月で仕事を退職し、母の介護にも備え

「もっと行けるようになるし、ごはん食べに行こなぁ」と言ってた矢先の出来事でした。

ことわざにもありますが「親孝行したいときに親はなし」

ほんとに私達の子供2人の事などで大変お世話になり、義父が亡くなってからは、車がいるような

買い物や移動などには、運転手で手伝いに行ってましたが、まだまだお返しができていませんでした。

娘が、葬儀まで気丈に親戚への対応をしてくれていたのに、最後の花束を回りに入れ御棺が閉じられるまで関を切ったよ<mark>う</mark>に 「<mark>おばあちゃんありがとうがとう!おばあちゃんありがとうがとう!</mark>」と泣きじゃくりながら言い続けていたのが耳についています。

▶ 次回以降に続きを書かせていただきます。

最後まで読んでいただきありがとうございます。不定期ではありますがこの『JYONAN通信』で 弊社の取り組み・出来事・イベントな<mark>どのお</mark>知らせの発行が出来ればと思っております。

※この通信紙及びチラシの送付でご迷惑をお<mark>かけし</mark>ていましたら恐れ入りますがご連絡いただければ送付を取りやめさせていただきます。

~安心・安全・健康で快適な住まいつくりのお手伝い~

おかげさまで創業108周年

〒604-8803 京都市中京区蛸薬師通大宮西入上ル因幡町97

TEL:075-841-1403 FAX:075-812-0457

ホームへ・ーシ゛: http://www.jonangumi.co.jp メールアト レス: info@jonangumi. co. jp

facebookで日頃の出来事や現場の進行状況を掲載しています。

建設業許可 京都府知事 (特-2)第1490号





